



# 臨床糖尿病支援ネットワーク MANO a MANO



“mano a mano”とはスペイン語で“手から手へ”という意味です

ご存知でしたか？塩分のとりすぎは  
喫煙よりも危険なのです！

[当法人評議員]

東京医科大学八王子医療センター

深谷 祥子 [管理栄養士]

喫煙は身体に悪影響を及ぼすということは周知の事実ではありますが、その喫煙よりも死亡リスクを高めるのが不適切な食習慣であり、それにより世界で毎年1100万人が寿命より早く亡くなり、それは5人に1人に相当するという世界の疾病負担研究(GBD)からの報告がありました。世界195ヶ国・地域で1990年～2017年までの死因などに関するデータから食習慣の健康に関する影響について調査分析された結果、不適切な食習慣の原因による死亡は全死因の22%であり、塩分の過剰摂取により300万人、全粒穀物の過少摂取で300万人、果物の過少摂取で200万人が死亡しており、喫煙を含む他のどのリスクより高い死因となっていたそうです。今回は不適切な食習慣の中でも一番リスクが高かった塩分について触れてみたいと思います。

日本人の塩分摂取は平成29年度の国民栄養調査では9.9gでした。実際には国民栄養調査よりも多く摂取しているのではないかと考えています。なぜなら、国民調査は強制力がなく協力する方のバイアスがかかること、食事調査は被調査者が世帯ごとに摂取した食品を1日秤量記録し、その食品を家族でどう分けたか記入する方式なので、日常でない優等生的な回答をしている可能性があるからです。24時間蓄尿を用いた全国調査<sup>2)</sup>の2013年の調査結果では平均ナトリウム排泄量(食塩相当量)は男性12.1g、女性10.2gという報告もあり、こちらの方がまだ実際に即しているのではないのでしょうか。それに対し塩分の目標量は、世界的には世界保健機構(WHO)は1日5g未満を指針としていますが、日本においては日本高血圧学会が1日6g未満、日本人の食事摂取基準2020年度版では成人男性7.5g未満、女性6.5g未満となります。

減塩、減塩と言ってもやっぱり塩分の多い物は食欲をそそりますし、ラーメン1杯を汁まで飲んでしまうと、WHO指針を軽くオーバーしてしまいます。糖尿病患者さんも高齢化してきており長年親しんだ舌を変化させるのはとても困難です。緩やかに減塩するという方法をお勧めしていましたが、最近思うことは、入院した当初は「こんな食事は〇〇も食わない」と不平不満を言われていた患者さんが、2～3週間すると「最近味が変わった。調理師が変わったのか」などと言われることが結構あり、塩分の閾値を下げるには一定の期間武者修行？的に行うのも一策なのかもしれません…。

さて、前述のGBDの報告によると、塩分を減らし、全粒穀物・果物・ナッツ・種子・野菜を多くとることが健康的な食生活を促進できるとされています。糖尿病の患者さんですと果物・ナッツ・種子類は摂りすぎには注意が必要ではありますが、令和元年という節目の年に食生活の改善に取り入れやすいことから始めてみるようにお伝えするのはいかがでしょうか。

- 1) Health effects of dietary risks in 195 countries, 1990-2017: a systematic analysis for the Global Burden of Disease Study 2017(Lancet 2019年4月3日)
- 2) #18206. Asakura K, Uechi K, Sasaki Y, Masayasu S, Sasaki S. Estimation of sodium and potassium intakes assessed by two 24h urine collections in healthy Japanese adults: a nationwide study. Br J Nutr 2014; 112(7): 1195-205.



読んで  
単位を  
獲得しよう

西東京糖尿病療養指導士(LCDE)は、更新のために5年間に於いて50単位を取得する必要があります。本法人会員は、会報「MANO a MANO」の本問題及び解答を読解された事を自己研修と見做し、**1年につき2単位**(5年間で10単位)を獲得できます。毎月、自分の知識を見直し、日々の療養指導にお役立てください。  
(「問題」は、過去のLCDE認定試験に出題されたものより選出、一部変更しております。)

**問題** 糖尿病の周術期治療において正しいのはどれか、2つ選べ。(答えは7ページにあります。)

1. 高血糖状態が遷延すると感染リスクが高まる
2. 血糖コントロールが不良な例ではHbA1c 7%未満になるまで手術を延期する
3. 5%ブドウ糖液500mlに中間型インスリン5単位を混注した
4. 周術期にインスリンを用いた場合は、術後食事が再開しても内服薬に戻すことはしない
5. 術後の食事摂取量が不安定であるため、超速効型インスリンを食直後に投与した



## 報告

## 第7回糖尿病看護を語る会

日時:平成31年2月2日(土)

場所:国分寺労政会館

[当法人会員] きよせの森コミュニティクリニック 塚本 万理子 [看護師]

看護師は、患者さん一人ひとりの「生きるさま」に寄り添うことができます。人生を左右することもあるため、重要な役割を担うにふさわしくありたいものです。「糖尿病看護を語る会」は、先人の想いや体験談、患者さんと向き合う姿勢を、膝をつき合せて語り合うような雰囲気の中で学ぶことを目的に発足しました。これまで、現役生活60年の堀口ハル子先生をはじめ、杉田和枝先生、森小津恵先生ほか著名な先生方にご講演頂きました。基調講演以外にも、毎回教科書では学べない感動があります。また、患者さんの本音を生の声で聴けることが好評です。

第7回は、渡部一美先生より「看護師の視点から栄養指導を考える」というテーマでご講演頂きました。食べることそのものが嫌になったご家族をみて「もっと何かできるのでは」と考え、管理栄養士に加えて看護師になられたそうです。行動変容ステージモデルを活用されたきめ細やかな療養支援を学びました。

一方、Nさんは「糖尿病の気がある」とご家族へ説明し続けてこられた方です。「はっきり言われるより、逃げ道があるように思いたい」「家族であっても皆の前で『糖尿病なのよ』と言われると防衛本能がわく」と話されました。カロリーオーバーの時は運動療法を取り入れ、良好なコントロールを維持されていました。患者さんの本音だけではなく、ご家族の声も聴くことができ、とても有意義な時間でした。今後の研修に是非ご参加ください。



## 報告

## 第9回薬剤師糖尿病指導研究会

日時:平成31年2月2日(土)

場所:国立市商業協同組合さくらホール

[当法人業務執行理事] かの内科 菅野 一男 [医師]

平成31年2月2日(土)に国立市商業協同組合さくらホールにて、第9回薬剤師糖尿病指導研究会が開催されました。今回のテーマは「指先血糖測定(SMBG)から持続皮下糖濃度測定(CGM・FGM)への最新の話題～FGMを触ってみよう～」でした。

第I部では、北里大学北里研究所病院 井上 岳先生より、「FGMってなあに? ～FGMを触ってみよう!～」としてFreeStyle Libreの装着方法やデータの見方を実際にデモ器を用いながら実演して頂きました。参加者にもデモ器に触れてもらい、詳細な使用方法などを確認して頂きました。第II部では、高村内科クリニック 植木 彬夫先生より、「FGMの特性と糖の見える化がもたらしたもの」と題してご講演頂きました。FGMを使用した患者さんが自分自身で食行動・運動行動・薬物治療が良い方向に行動変容していき、結果として低血糖や高血糖を減らすことでHbA1c・体重を低下させ、意識強化することが出来るというデータをご紹介頂きました。同じものを食べても、食べ方によって血糖値の上昇幅が変化することや、1型糖尿病患者さんへのSGLT2使用のデータなど最新の知見もご教示頂きました。

当会は35名の方々にご参加頂き、話題となっているFGMについて実技を含め、活用方法を学ぶ研究会

となりました。次回第10回は2020年2月に開催予定ですので、ご興味のある方は是非ご参加ください!



## 報告

## 西東京CDEの会 第17回症例検討会

日時:平成31年2月7日(木)  
場所:国分寺労政会館

[当法人会員] 実行委員 西東京中央総合病院 吉田 まゆみ [看護師]



天川先生



今野先生



福島先生

2月7日(木)に『西東京CDEの会 第17回症例検討会』が国分寺労政会館にて開催されました。今回は「糖尿病腎症患者の療養支援を考えよう」～チーム医療で取り組む継続指導とは～というテーマのもと、33名の方が参加されました。他職種連携による“チーム医療で取り組む継続指導”という今回のテーマにふさわしく、医師、看護師、そして歯科医師、管理栄養士、薬剤師、理学療法士の皆様が集まりました。

まず初めに今野里美先生より「チームでかかわる透析予防管理の実際」と題し、症例紹介をいただきました。その症例に基づきご参加いただいた皆様とグループに分かれ、症例検討を行いました。各職種ならではの視点に沿った貴重なご意見が寄せられ、短時間ではありましたがとても充実した話し合いの場を持つことができました。次に福島由香里先生の「透析予防における実際の栄養指導について」、天川淑宏先生「糖尿病透析予防指導管理料と運動指導について」の演題にて管理栄養士、理学療法士それぞれの立場からのご講演をいただきました。会場内の皆様が熱心に耳を傾けられ、頷かれる姿がとても印象的でした。限られた時間ではございましたが、活発に意見交換ができ、参加された皆様の意見や疑問点について、会場内で共有することができました。



## 報告

## 第5回糖尿病とWell-aging研究会

日時:平成31年2月9日(土)  
場所:三鷹産業プラザ



松久先生

平成31年2月9日(土)に「第5回糖尿病とWell-aging研究会」が開催され、37名の方が参加されました。第一部では、貴田岡正史先生の司会のもと、「糖尿病患者の早期死亡原因に関する因子の検討」と題し、高村内科クリニック 植木彬夫先生にご講演いただきました。糖尿病患者さんの寿命が延伸している一方で、早く亡くなる方と長寿な方がいることに焦点を当て、それぞれの生活背景の違いをご紹介いただき、患者さんとの関わり方の重要性についてご講演いただきました。第二部では、植木彬夫先生の司会のもと、「ICTが拓くこれからの糖尿病診療」と題し、徳島大学 松久宗英先生にご講演いただきました。進歩が目覚ましいICT(Information Communication Technology)の紹介や、電子化情報や機器を活用した徳島県での糖尿病診療についてご講演いただきました。遠隔地域でどのように専門的な診療を行うか、新たな取り組みと手段を活用する上での課題や展望を含めてご講演いただきました。いずれのご講演も活発なご質問があり、大雪予報にもかかわらず、盛会のうちに終了しました。



## 報告

## 第44回糖尿病連絡会

日時：平成31年2月20日(水)

場所：公立昭和病院 講堂

2月20日(水) 公立昭和病院 2F 講堂において、第44回糖尿病連絡会が開催されました。当日は医師・コメディカルを含め、34名の参加で盛況に終了することができました。今回は「血糖の日内変動を考慮した薬物治療の検討」をテーマに、はるクリニック 院長 岩崎 晴美先生に司会進行をして頂きました。公立昭和病院 臨床検査科 科長 櫻井 勉先生より、ミニレクチャー①として、「自己血糖測定の実施、考え方の基本」について、自己血糖測定の適応や注意点について、実機によるデモンストレーションも活用頂き、ご講演頂きました。また池田内科医院 院長 池田 吉昭先生より、ミニレクチャー②として、「簡易型自己血糖



岩崎先生



西村先生

糖モニタリングシステム(FGM)フリースタイルリブレの使用経験～リアルタイムに血糖が分かることで患者さんの意識・行動がどのように変わったか～」について、患者さんへFGMを導入した際の実際の意識・行動変容をご紹介頂き、患者さんにとってのFGM有用性についてご講演頂きました。特別講演では、東京慈恵会医科大学 糖尿病・代謝・内分泌内科 教授 西村 理明先生より、SGLT2阻害薬時代に入りつつある糖尿病治療の最適化～CGMの知見も含めて～」についてご講演頂きました。CGM・FGMの変遷や臨床活用する際の利点や注意点、対処方法について具体的に紹介頂くとともに、日内変動を踏まえ、各種糖尿病治療薬をどのように活用すべきか、自験例も踏まえ分り易くご講演頂きました。



## 報告

## 糖尿病災害対策委員会 第7回医療者向けセミナー

日時：平成31年3月6日(水)

場所：立川市女性総合センターアイム

[当法人評議員] 大和調剤センター 森 貴幸 [薬剤師]

2019年3月6日水曜日、立川市女性総合センターアイム・ホールにて一般社団法人臨床糖尿病支援ネットワーク 糖尿病災害対策委員会 第7回医療者向けセミナーを、メインテーマ「大震災を通じて考えよう～東日本大震災を振り返る～」として行いましたのでご報告いたします。

講演として南三陸さんさん商店街にある写真館さりょうスタジオのカメラマン佐藤 信一先生をお招きして震災前から被災、津波襲来、震災後、復興半ばの様子を、写真を見せていただきながらその時の気持ちや考えていたことなどを話してくださいました。写真家としてではなくこのすさまじい状態を伝えていくために写真を撮り続けたと聞いて芯の強い方ですが、苦しかったのではないかと思います。今回の講演は参加者に心響くものがあったのではないかと思います。パネルディスカッションでは宮川先生、小林先生を座長に佐藤先生、辻野先生、岡崎先生、波田先生、金子先生で行いました。それぞれの立場から5分ずつ発表していただきました。東京で大規模災害が起きた時の備えについて発表がありました。準備をしていくことの大切さ、そして準備していても失われていく命があることを再確認できたと思います。佐藤先生から風化させないことが使命である、と教えていただきました。MANO a MANOをお読みの皆さん、災害は防ぐことはできません。災害に備え減災できる努力を続けていくことが重要であると考えます。



## 報告

第43回東糖協多摩ブロック糖尿病教室  
第25回西東京糖尿病患者会連合特別講演会日時:平成31年3月9日(土)  
場所:三鷹産業プラザ

平成31年3月9日(土)、14時より三鷹産業プラザ7階ホールにて第43回東糖協多摩ブロック糖尿病教室・第25回西東京糖尿病患者会連合特別講演会が開催されました。

今回はブロック糖尿病教室の演者として、多摩北部医療センター 内分泌・代謝内科部長の藤田寛子先生より「そのメタボは食べ過ぎだけ?～改めて見直す「体内時計」と「生活習慣」～」のご講演と、緑風荘病院 管理栄養士の藤原恵子先生より「やさしく作れる!やさしいごはん～血糖上げずに栄養不足を防ぎます～」のご演題、また、患者体験談として梅の会代表の須田一男様より「私の糖尿病体験」のお話を頂きました。特別講演としては埼玉医科大学 内分泌・糖尿病内科 教授の島田朗先生より「糖尿病の最新情報」というテーマでご講演頂きました。須田様の体験談は会場の多くの参加者の共感を呼びました。

先生方からはとても解かりやすく興味を引く内容でのご講演を頂き、会場から質問や意見が多く挙がる活況な時間となりました。当日は天候も良く、参加者は78名で開始前の相談コーナーにも行列ができるなど、大変盛況な会となりました。



## 報告

## 西東京CSII普及啓発プロジェクト 第16回研修会

日時:平成31年3月12日(火)  
場所:立川相互病院横 講堂

[当法人理事] 多摩センタークリニックみらい 藤井 仁美 [医師]



宮城先生



藤井先生



一神先生

去る3月12日(火)立川相互病院薬局棟講堂にて研修会が開催されました。今年から始まる個人持ちのCGM(持続グルコースモニタリング)2社の2機種が紹介・プレゼンされました。手元で実体験するほどの台数には恵まれませんでしたが「こんなもの」と想像くらいはついたでしょうか?討論パートでは2社のCGMやFGM(アボット・フリースタイルリブレ)に関して、使用方法や価格、データを示すソフトウェアなどの比較が示されました。日本で

はより古い機種が使用されたり、ソフトウェアも患者自身に提供されるものには各種制限があったりと欧米に遅れをとっている様相で、国内メーカーの立ち遅れもあります。

2014年に設立した当会は研修会16回を数えました。この間、インスリンポンプに付随する新機能やCGM機器などの技術革新あり、診療報酬や算定条件の緩和などもありました。各社の協力を得て東京23区との導入数・施設数の推移を検討しましたが、当会の影響で実数が伸びたというような明白な成果はありませんでした。FGMのような比較的安価で簡便な機器の普及は見込まれますが、ポンプ療法は施行する施設としない施設の間にまだ溝がありそうです。



## 報告

## 第23回南多摩糖尿病教育研究会

日時:平成31年3月14日(木)

場所:パルテノン多摩

[当法人理事] 多摩センタークリニックみらい 藤井 仁美 [医師]

3月14日(木)、第23回となる本会は「糖尿病注射療法にまつわる問題点」をテーマに開催し、61名の方々にご参加頂きました。特別講演はクリニックみらい 国立 院長 宮川 高一先生より「学ぼう!糖尿病注射療法の基礎から応用」と題しご講演頂きました。

「質の良い血糖コントロールをすること、血糖を平坦化することが重要であり、何よりも夜間低血糖を起こさないことが重要である」、「高齢者でのコントロール目標値はHbA1c8.5%以下が最も重要」といった話題から始まり、インスリン注射療法の変遷を中心に各インスリンの特徴や使用上の注意点、そしてデバイス、針の特徴についてもご紹介頂きました。また、血糖を平坦化を目的にGLP-1受容体作動薬を使用した症例提示も頂きました。

パネルディスカッションでは、松下隆哉先生に加え、飯田美佐子先生(看護師)、栗栖啓充先生(薬剤師)に登壇頂き、『明日からできる糖尿病注射療法～患者さんのために各職種でできること～』というテーマで座長の本城 聡先生を中心に討議頂きました。JDDM研究では、糖尿病患者の約半数がHbA1c7.0%を達成していない。現在インスリンは進歩し、最近ではGLP-1受容体作動薬も含め、さまざまな種類がある。健康な人と変わらない生活を送るためには患者さんに前向きに注射療法に取り組んで頂く必要があり、患者さんに接する医療従事者それぞれの役割、導入する際に注意する点等について討議を行いました。

今回は「網膜症」をテーマとして、開催を予定しております。興味のある方は是非ご参加をお待ちしております!

## 報告

## 第26回TAMA生活習慣病フォーラム

日時:平成31年3月16日(土)

場所:調布市文化会館たづくり

[当法人理事] 代表世話人 片山内科クリニック 片山 隆司 [医師]

平成31年3月16日(土)に調布市文化会館たづくりにて、第26回TAMA生活習慣病フォーラムが開催されました。テーマは「これが噂の糖尿病最新治療最前線 ～今こそ知りたいトピックスを集めましたPart2～」。

第Ⅰ部 基調講演は、東京医科大学 臨床検査医学分野 関谷綾子先生より、フレディ・マーキュリーらが活躍していた時代からの薬の目覚ましい進歩により、近年HIV感染症に対する関わり方が変わってきている事を示していただきました。そして、HIV感染症者にとって医療機関はオープンに出来る数少ない居場所である事、またHIV感染症より高齢に伴う生活習慣病のコントロールの方が重要である事を強調していただきました。

第Ⅱ部 基調講演では、理化学研究所 生命医科学研究センター 堀越桃子先生より、最近プレスリリースされました“日本人集団の2型糖尿病に関わる新たな遺伝子領域を発見”の内容を中心に、何故日本人集団では欧米人集団と比較してGLP-1受容体作動薬を含むインクレチン関連薬の有効性が高いかを解説していただきました。

第Ⅲ部 基調講演では、東京大学大学院医学系研究科 健康空間情報学講座 脇嘉代先生より、慢性疾患の管理におけるICT/IoTの利活用を紹介していただきました。講演の最後に“やはり人と人とのコミュニケーションが大事”という言葉が聴講者の心に深い感銘を与えました。

終了後のアンケートにおいても、難しい内容でしたが何が最新の情報・治療等だと実感できました、すごい



内容の講演だと思われた...等さまざまな感想・ご意見をいただきました。回答者全員から“次回も参加したい”という回答をいただき、当フォーラムへの期待を実感する事ができました。



## 第53回糖尿病学の進歩

平成31年3月1日(金)～2日(土)  
リンクステーションホール青森 他

東京都立多摩総合医療センター  
百瀬 崇 [医師]

平成31年3月1日から3月2日、まだ雪が残る青森市で第53回糖尿病学の進歩が開催されました。2日間に渡り糖尿病について学ぶ機会を得ましたので報告致します。多くの学びがありましたが、その中でも血糖測定方法の多様化と高齢者糖尿病患者の血糖管理について紹介致します。

最近の糖尿病治療における進歩は目覚ましいものがあります。特に、FreeStyleリブレ®などのフラッシュグルコースモニタリング(FGM)や、予測低血糖自動注入停止型インスリンポンプであるMiniMed 640Gなども徐々に臨床の現場に浸透しつつあります。今回の学会でも新しい機器として、平成31年2月28日より保険収載されたリアルタイムCGMであるDEXCOM G4®や、今後使用可能になると考えられるガーディアン™コネクトシステムなど、糖尿病患者さんの治療において有用な機器の紹介がありました。DEXCOM G4®は血糖測定精度が高いことが特徴であり、ガーディアン™コネクトシステムは低血糖を予測するアラームや遠隔診療への期待などもあるようでした。これまで使用されていた持続血糖測定器(CGM)はドライブレコーダータイプで、記録されたものを振り返るものであったのに対して、FGMやリアルタイムCGMはカーナビゲーションのような存在との説明があり、糖尿病治療が大きく変化していることを再認識しました。今後、今まで以上に血糖変動を少なくするような血糖管理ができる可能性が高く、よいHbA1cを得ながら、低血糖は少なくといった理想的な治療ができる環境が整ってきていると感じました。



先進的な機器が多く出てきた一方で、高齢者における糖尿病診療・治療についても、現在患者数が増えており临床上非常に重要です。高齢者ではカテゴリー毎に治療目標を変えることが推奨されていますが、DASC-8(認知・生活機能質問票)を用いても簡易的に血糖コントロール目標のカテゴリー分けを行えることが紹介されていました。治療については、単純化、服薬タイミングの統一、服薬数・回数を減らす、週1回製剤の使用など、「脱」強化療法といった概念も高齢者においては重要性が高いとの報告がありました。

以上に挙げたのは学会の一部ではございますが、糖尿病学については日々進歩していると感じることのできた学会でした。来年は金沢で開催されるとのことですので、皆様も是非参加をご検討ください。



### 研究会等のセミナー・イベント情報

◆ 主催事業 ◆ 共催・後援事業 □ その他

#### ◆ 一般社団法人 臨床糖尿病支援ネットワーク 第65回例会

申込不要

開催日：2019年6月22日(土) 15:15～18:50  
場所：国分寺市立いずみホール(JR中央線「西国分寺駅」下車 徒歩2分)  
参加費：当法人会員 無料 / 一般 1,500円  
☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：7単位  
☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<第2群>：1単位申請中  
☆日糖協療養指導医取得のための講習会：申請中

参加費  
無料

読んで  
単位を  
獲得しよう

答え 1, 5 下記の解説をよく読みましょう。

(問題は1ページにあります。)

**解説** 高血糖状態は感染のリスクを高め、創傷治癒遅延につながるため、手術に当たってはできるだけコントロール良好であることが望ましい(空腹時血糖100～140mg/dl、食後200mg/dl以下、尿ケトン陰性。HbA1cの目標値は提示されていない)。ただし、緊急時などで必要な場合にはその限りではなく血糖コントロールをしながら手術を行う。術中の点滴に関してはインスリンを混合することがあるが、使用するのは「速効型(レギュラーインスリン)」であり「中間型」は使用しない。術後食事再開の場合、元々内服によるコントロールが良好であれば状態により内服に戻してもよい。一方、食事摂取量が不安定な場合などには食事量などを見ながら食直後に超速効型インスリンを投与する方法も用いられる。

## 研究会等のセミナー・イベント情報

 主催事業
  共催・後援事業
  その他

## ◆ 西東京CDEの会 第18回例会

申込必要

テーマ：『糖尿病の在宅支援を考える 多職種で考えよう！2025年とその先の在宅療養支援』

開催日：2019年6月29日（土）15：30～19：00

場所：府中市立中央文化センター ひばりホール（京王線「府中駅」下車 徒歩5分）

参加費：当法人会員 1,500円 / 一般 2,500円

申込：当法人ホームページのイベント情報にある「申込みフォーム」よりお申込みください。（6/19締切）

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：7単位

☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位＜第2群＞：1単位申請中

## ◆ 2019年度 西東京糖尿病療養指導プログラム(CDEJ1群)

申込必要

第16回 西東京教育看護研修会

第4回 西東京臨床検査研修会

第16回 西東京病態栄養研修会

第4回 西東京運動療法研修会

第16回 西東京薬剤研修会

フリーコース

開催日：2019年7月28日（日）9：25～16：55（開場9：10）

場所：北里大学・薬学部 白金キャンパス

（JR山手線「恵比寿駅」下車 徒歩20分 または 都営三田線「白金高輪駅」下車 徒歩13分）

参加費：[5/27～7/12] 7,000円

申込：当法人ホームページの「重要なお知らせ」または「新着情報」の

「2019年度 西東京糖尿病療養指導プログラムのお申し込みはこちらから」よりお申し込みください。（7/12締切）

問合せ：臨床糖尿病支援ネットワーク事務局 TEL：042-322-7468

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：10単位

☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位＜第2群＞：2単位申請中

☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位＜第1群＞：申請中

※日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位は＜第1群＞は、自分の職種である研修会に参加した場合のみ取得できます。また＜第1群＞と＜第2群＞の単位はどちらか一方のみ認められます。

※フリーコースで取得できる単位は、西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位(10単位)のみとなります。

## ◆ 西東京CSII普及啓発プロジェクト 第17回研修会

申込必要

テーマ：『SAP/Libre レポートをどう活用するか？～臨床診療現場での診療と療養指導のヒント』

開催日：2019年7月30日（火）19：20～21：00

場所：立川相互病院横 薬局棟2階・講堂（JR中央線「立川駅」北口下車 徒歩8分）

参加費：当法人会員 1,000円 / 一般 1,500円

申込：当法人ホームページのイベント情報にある「申込みフォーム」よりお申込みください。（7/21締切）

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：4単位

## ◆ 第7回 糖尿病災害対策セミナー

申込必要

テーマ：『災害時避難所で困らないために～今できること、その場でできること～』

開催日：2019年9月1日（日）14：20～16：00

場所：国分寺市立いずみホール（JR中央線「西国分寺駅」下車 徒歩2分）

申込：当法人ホームページのセミナー情報にある「申込みフォーム」よりお申込みください。（8/22締切）

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：4単位

☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位＜第2群＞：0.5単位申請中

参加費  
無料

## 発行元

一般社団法人 臨床糖尿病支援ネットワーク事務局  
〒185-0012  
国分寺市本町2-23-5 ラフィネ込山No.3-802  
TEL:042(322)7468 FAX:042(322)7478  
https://www.cad-net.jp/  
Email:w\_tokyo\_dm\_net@crest.ocn.ne.jp

## 編集後記



5月号よりこのMANO a MANO が電子化され紙媒体での配布が終了しましたが皆さんご覧頂けてますでしょうか。5月の23～25日は仙台で「第62回日本糖尿病学会年次学術集会」が開催されました。今回は、ポスター発表がデジタル発表という方式で、こちらも紙媒体を使わない発表方式でした。色々な場面でデジタル化が進んでいますね。良い面悪い面あるのかも知れませんが、上手に活用して行けると良いなと感じております。（広報委員 永田 美和）